

横荒山モミ・ツガ(遺伝資源)希少個体群保護林



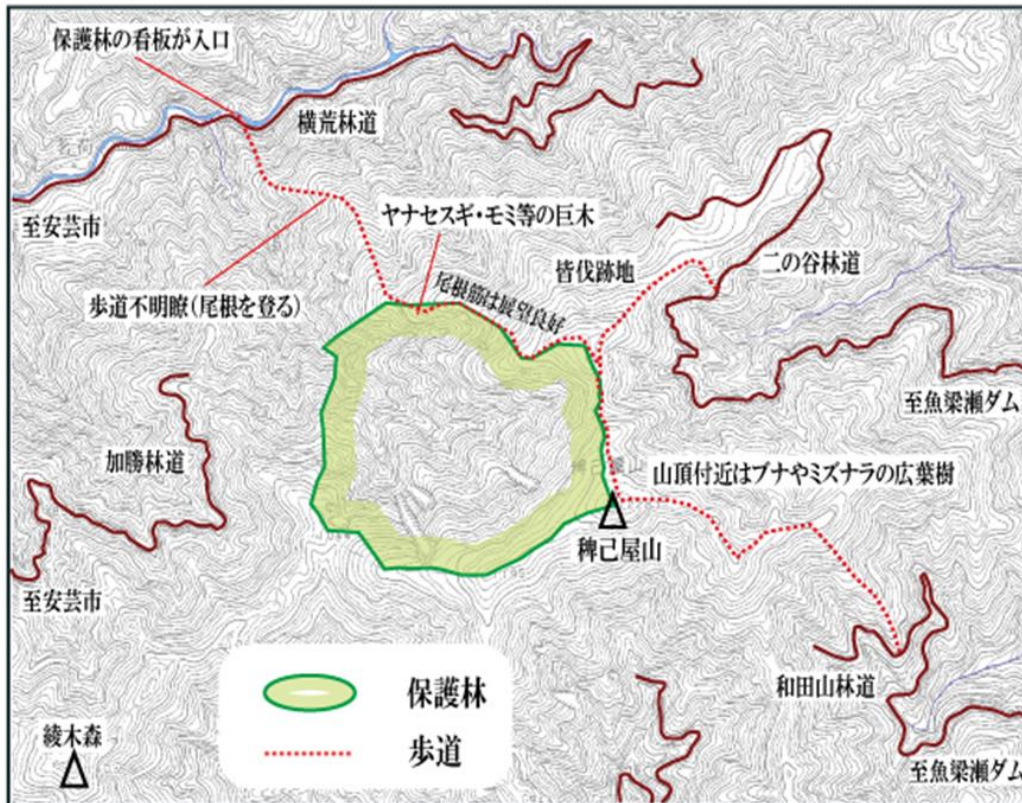
稗己屋山 (1,228m) の北西に位置し、面積は約 80ha で広い原生林が残されています。主にモミとツガが生育し、場所によってはヤナセスギやブナ、ミズメ、カエデ類が混生しています。

ツガは、やや乾燥を好むことから、適潤性のモミとすみ分け、尾根筋付近に多く見られます。

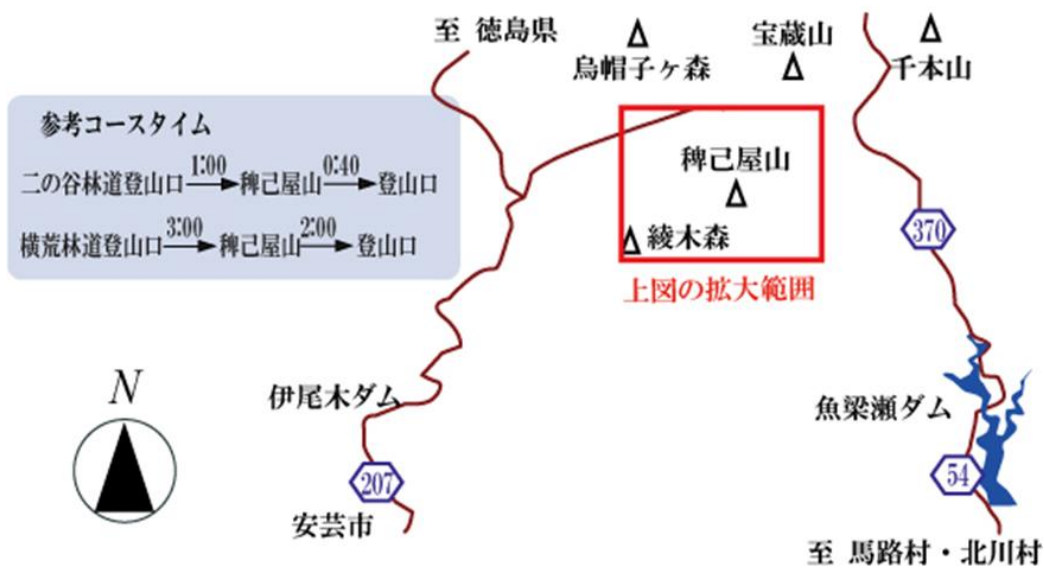
モミ・ツガの樹相が放つ一種重厚な趣きは、訪れる人々を幽玄の世界へと誘います。

【保護林マップ】

横荒山モミ・ツガ (遺伝資源) 希少個体群保護林マップ



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平23情保、第206号)



林道の状況等については安芸森林管理署へお問い合わせください。
横荒林道からは皆伐跡地を登るため道が不明瞭な箇所があります。十分ご注意ください。

【上空から見た保護林】



稗己屋山の北側に位置し、標高の高い所では冷温帯のブナが、中腹部以下ではシキミ、ヤブツバキなどの暖温帯の下層植生が多くなります。

(2012年3月22日撮影)

【保護林内の樹木】

保護林内はモミやツガが主に生育しており、ヤナセスギやアオハダ、イタヤカエデ、オオモミジ、コハウチワカエデ、ヒメシャラ等の広葉樹も多く生育しています。樹冠にはヤシヤビシヤクなどが着生し、林内はヤハズアジサイやツクシシヤクナゲ等の「そはやき要素」の植物が生育しています。「そはやき要素」とは、九州南部、四国、紀伊半島、東海南部の温帯地域のことを差し、その地域の固有種を意味しています。

ツガはブナ帯のやせ地や尾根に良く生育し、高さ 30m ほどに成長します。



▲ツガの樹形

広い円錐形をしています。



▲ツガの葉

コメツガに似ているが、コメツガと違い若い枝に毛がないのが特徴です。
葉の裏は気孔線があり白い筋に見えます。

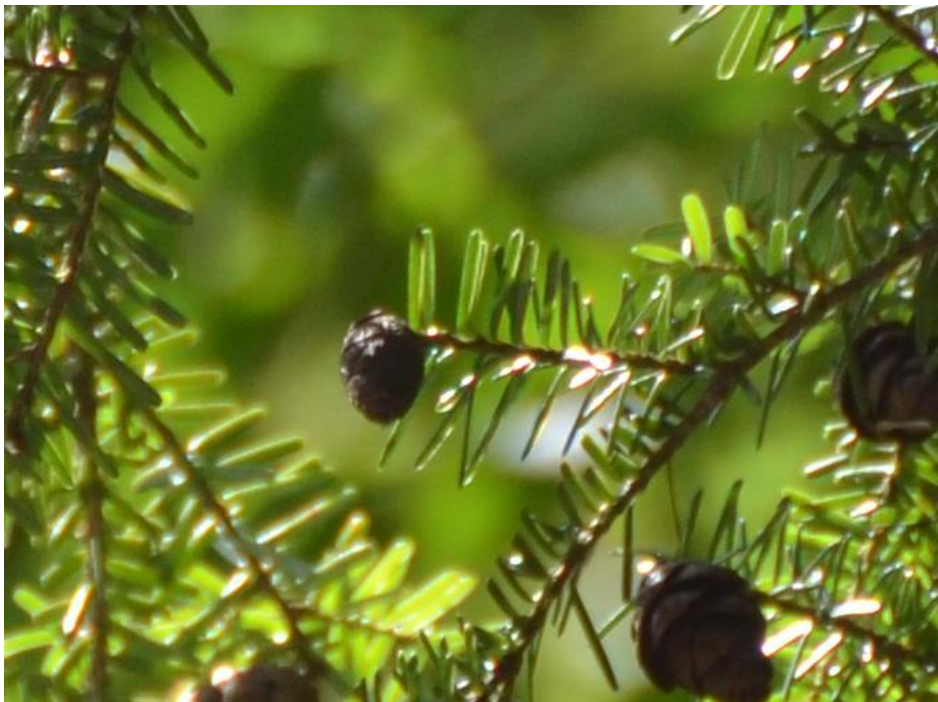


▲ツガの幹

樹皮は褐色で浅く割れます。



▲ツガの球果



▲球果の長さは2~3cm。球果の付け根（果柄）が曲がるのが特徴です。（コメツガの球果は曲がらない）

モミの特徴は梶ヶ谷山保護林をご覧ください。



▲大株のヤハズアジサイ



▲ヤハズアジサイの花。8月ごろに花を咲かせる